

第 7 章	社会(歴史)	名前:	日 付	No.01
	室町			

[問題 1]

次の文の①～⑧にはいる適語を下の語群の[]からそれぞれ選びなさい。

御家人は、元寇のときに多くの費用を使ったのに、恩賞を十分に与えられなかったため、幕府に不満をもつようになりました。また、農業と商業の発達、御家人たちの生活に大きな影響をあたえました。御家人のなかには、(①)からの借金が返せなくて、領地を失う者も出てきました。幕府は(②)を出して、売ったり質流れになったりした土地を、もとの持ち主にただで返させようとしていました。しかし、効果は一時的なもので、かえって幕府は信用を失いました。

このようにして、鎌倉幕府はゆるぎはじめました。そのうえ、武士のなかには鎌倉幕府の政治や荘園の支配に反抗する者も出はじめました。このような人たちを悪党とよびました。

こうした幕府のおとろえをみて、(③)は、幕府をたおして(④)中心の政治を取りもどそうと考え、(⑤)など、悪党とよばれた武士たちによびかけて兵をあげました。これに対して幕府は、大軍を京都にのぼらせました。しかし、有力な御家人の(⑥)は、幕府にそむいて、1333 年、京都の六波羅探題を攻め落とし、(⑦)も鎌倉に攻め込んで、鎌倉幕府をほろぼしました。

鎌倉幕府がほろびると、(③)は(④)中心の政治をめざしました。この政治を(⑧)といいます。

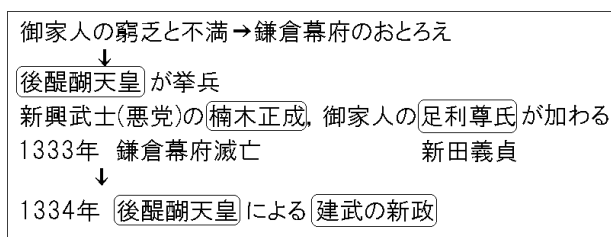
(語群)

[足利尊氏 足利義満 足利義政 新田義貞 楠木正成 後醍醐天皇 後鳥羽上皇 高利貸し
徳政令 天皇 貴族 建武の新政]

[解答欄]

①高利貸し	②徳政令	③後醍醐天皇	④天皇
⑤楠木正成	⑥足利尊氏	⑦新田義貞	⑧建武の新政

[解説]



1333 年に鎌倉幕府は滅亡した。滅亡の原因の第一は、御家人の窮乏と不満である。所領の分割相続と貨幣経済の進展によって御家人は次第に窮乏していった。

また、元寇のとき恩賞がほとんどもらえなかったことで幕府への不満が広がった(御恩と奉公における重大な契約違反)。幕府は永仁の徳政令を出したが、その効果はうすく、かえって御家人の不満と不信をまねく結果に終わった。このような動揺をおさえるため北条氏は専制政治を強化したが、それはますます御家人の不満をつのらせる結果になった。

滅亡の原因の第二は、鎌倉中期以降の経済発展によって社会が大きく変動し、これにともなって、悪党とよばれる新しい武士階層が出てきたことである。農村経済の発達とそれにともなう商業の発達によって経済力をたくわえた御家人ではないあらたな武士が成長していった。彼らの中には、荘園の年貢を奪うなど、幕府の秩序を乱す者もあり、悪党とよばれた。悪党はやがて各地に広がっていき、百姓の抵抗運動とともに、荘園領主や幕府を悩ますようになっていった。

滅亡の原因の第三は、**後醍醐天皇**である。幕府のおとろえをみて、後醍醐天皇は、幕府をたおして天皇中心の政治を取りもどそうと考え、**楠木正成**など、悪党とよばれた武士たちによびかけて兵をあげた。これに対して幕府は、大軍を京都にのぼらせた。しかし、有力な御家人の**足利尊氏**は、幕府にそむいて、1333年、京都の六波羅探題を攻め落とし、新田義貞も鎌倉に攻め込んで、鎌倉幕府をほろぼしました。(一味さんざん(1333)鎌倉滅ぶ)

[問題 2]

地図を見て、①～②のことがらと関連のある場所を、
地図のア～カから選びなさい。

- ① 南朝がおかれる
- ② 足利尊氏が幕府を開く

[解答欄]

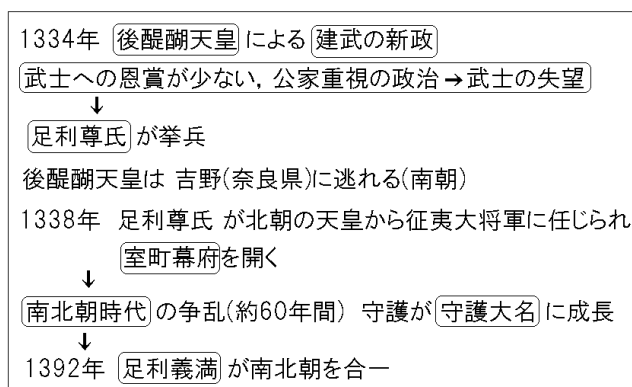
① ウ	② エ
------------	------------



[解説 1]

足利尊氏が新政に対抗して兵をあげ、京都(エ)で新しい天皇(北朝)を立て、後醍醐天皇は^{よしの}吉野(ウ：現在の奈良県)に逃れたが、これを南朝という。尊氏は北朝から征夷大將軍に任じられて、京都(エ)に室町幕府を開いた。

[解説 2]



後醍醐天皇は天皇中心の政治をめざした。この政治のことを**建武の新政**という。しかし、新政の大事な役には公家が多くあてられ、恩賞に不満を持つ武士も少なくなかった。

また、税の軽減は行われず、戦乱による苦しみを考えずに宮殿の造営を考えるような政治の失敗もあいついだ。こうして、しだいに**公家中心の新政に不満をもつ者が多くなっていった**。

こうした動きを見た**足利尊氏**は、新政に対抗して兵をあげ、京都で新しい天皇をたてた。これを北朝という。後醍醐天皇は**吉野(奈良県)**に逃れたが、これを南朝という。足利尊氏は1338年に、北朝によって征夷大將軍に任命されて**室町幕府**を開いたが、幕府の支配力は弱く、このあと**約60年**にわたって**南北朝の動乱**の時代が続くことになる。(将軍尊氏勇み肌(1338))

この時代、相続をめぐるそれぞれの武士一族内部の争いが激しくなっていた。一方が北朝方につくと、他方が南朝方について戦うという形で、戦乱を拡大させた。また、幕府内部も2つに分かれて武力で争い、内乱ははてるともなく続いた。南北朝の動乱のなかで足利尊氏は、味方になってもらいたい守護に荘園の年貢の半分を徴収する権限を与えた。これをきっかけに、守護は国内の武士を家来にしていき、その国全体を支配する**守護大名**に成長していった。

14世紀末になって、ようやく各地での争いも少なくなり、1392年、三代将軍**足利義満**が、南北朝を合一させ、**約60年**続いた南北朝の争乱は終わった。(いざ国(1392)を統合南北朝)

[問題 3]

南北朝時代から、自分の領地を拡大し、国内の地頭や武士を家来として従える()大名がふえてきた。

(1) ()にあてはまる語を書きなさい。

(2) 下線部は約何年間続きましたか。次の[]から選びなさい。

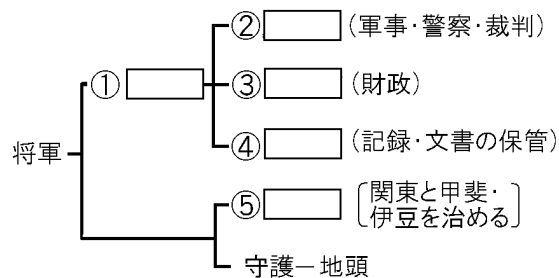
[40 年 60 年 80 年 100 年]

[解答欄]

(1) 守護	(2) 60 年
--------	----------

[問題 4]

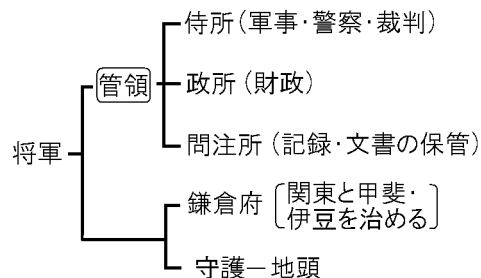
次の図は室町幕府のしくみを表している。①～⑤にあてはまる語句を書け。



[解答欄]

① 管領	② 侍所	③ 政所	④ 問注所	⑤ 鎌倉府
------	------	------	-------	-------

[解説]



管領は将軍を補佐する職で、侍所(軍事・警察・裁判)や政所(財政)などを統括し、諸国の守護に将軍の命令を伝達した。管領には有力な守護大名の細川、斯波、畠山が交代で任命された。

鎌倉府は、足利尊氏が、幕府の基盤であった関東を重視して、その子基氏に開かせたもので、東国の支配を任せた。

三代将軍足利義満は、京都の室町に花の御所とよばれる大邸宅を建てて政治を行った。

足利氏の幕府を室町幕府とよぶのはこの室町という地名に由来している。

[問題 5]

次の文の()に適語を入れよ。

南北朝の統一に成功し、幕府が全国を支配するようになったのは三代将軍(①)のときである。その少し前、中国では漢民族が元を倒して(②)という王朝を建国していた。(②)は、当時中国の沿岸部を荒らし回っていた(③)という海賊の取り締まりを日本に求めてきた。(①)はこの申し入れに応じて、(③)の取り締まりをおこない、その見返りとして(②)との貿易を認められた。(③)と正式な貿易船を区別するために(④)という合い札を用いたので、この貿易は(⑤)とよばれている。日本からの輸出品は銅、刀剣、工芸品で、日本の輸入品は(⑥)、絹織物、陶磁器などであった。

[解答欄]

① 足利義満	② 明	③ 倭寇	④ 勘合
⑤ 勘合貿易	⑥ 銅銭		

[解説]

1368年 元を倒して、明が建国
明が、倭寇の取り締まりを日本に求める
1392年 三代将軍 足利義満が南北朝を統一
1404年 足利義満、勘合貿易を始める
勘合 で 正式の貿易船と倭寇を区別
輸入品：銅銭・絹織物・陶磁器
輸出品：銅・刀剣・工芸品

南北朝の動乱で幕府の支配力が弱くなっていた時期、倭寇の活動がさかんになった。倭寇とは、壱岐・対馬・肥前松浦の土豪・商人・漁民を中心に朝鮮人も加わった武装商人団で、ふだんは、中国や朝鮮の沿岸部で貿易を行い、貿易が認められないときは海賊となって暴れ回り、略奪を行った。

このころ(1368年)中国では漢民族が元を倒して明を建国した。明は倭寇のとりしまりを日本に求めてきたが、日本国内は南北朝動乱の末期で、これに対応できなかった。

その後、1392年になって三代将軍足利義満は南北朝の合一を達成し、ようやく国内が統一された。

(いざ国(1392)を統合南北朝)

義満は、倭寇のとりしまりを約束し、さらに日本国王として明の皇帝に従うという形式をとって、1404年に勘合貿易を始めた(中国独特の中華思想では、中国の皇帝の下に周辺国の王が臣下としてつかえるべきものと考えていた)。

このような形式をとってまで、義満が勘合貿易をおこなったのは、その利益が非常に大きかったためで、財政基礎の弱い室町幕府にとっては魅力的なものであった。

貿易船には、倭寇と区別するために勘合という合い札をもたせた。「本字勘合」などと書いた札を2つに分け、片方を勘合船がもち、片方を中国の役所でもっていて、2つの割札がきちんと重なるかどうかで、正式の貿易船と倭寇を区別した。

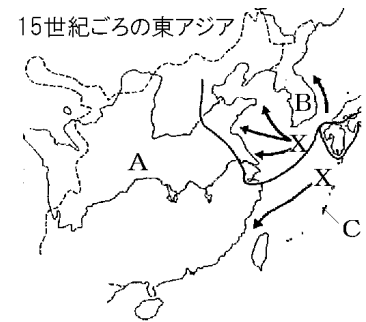
日本からの輸出品は銅、刀剣、工芸品で、日本の輸入品は銅銭、絹織物、陶磁器であった。

勘合貿易がはじまると倭寇の活動は鎮静化に向かった。

[問題 6]

右の地図を見て、各問いに答えなさい。

- (1) A～C の国名を答えなさい。
- (2) X は、海賊の経路を示している。この日本の海賊は、何とよばれていましたか。
- (3) 勘合貿易で日本が中国に輸出したものを次から、1つ選びなさい。
[銅銭 絹織物 銅 香辛料]



[解答欄]

(1)A 明	B 朝鮮(朝鮮国)	C 琉球王国	(2) 倭寇	(3) 銅
--------	-----------	--------	--------	-------

[問題 7]

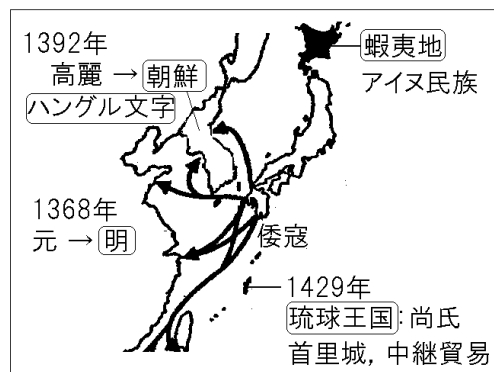
次の各問いに答えよ。

- (1) 朝鮮半島では、14 世紀末に高麗が滅亡し、何という国が建国されたか。
- (2) (1)の国で制定された文字を何というか。

[解答欄]

(1) 朝鮮(朝鮮国)	(2) ハングル
-------------	----------

[解説]



朝鮮半島では倭寇を撃退して名声をあげた李成桂が高麗を倒して**朝鮮(朝鮮国)**を建国した。

朝鮮語を書き表す**ハングル**という文字がつくられた。

沖縄では、15 世紀はじめに**尚氏**が**琉球王国**を建て首都の**首里**に**首里城**を築き、明・日本・朝鮮・東南アジア各地に進出して**中継貿易**を行った。

蝦夷地(北海道)では、**アイヌ民族**が古くから狩猟・漁業や交易を行っていたが、本州の和人の進出に圧迫され、やがて大きな反乱をおこした。